令和2年度高知県立農業大学校評価表
 【 A 100%以上 B 100%未満 80%以上 C 80%未満 60%以上 D 60%未満 】

外部評価 R3年2月12日実施

評価項目	課題	目標	具体的方策	実績 (内部評価)		外部評価	今後の課題・改善策	
				評価	評価			
1 魅力ある 学校づくり (1) (学生の 確保： R3年 度)	<ul style="list-style-type: none"> ○平成29年度の在籍者は定員の半数以下 ○受験者は農業高校及びコース校が全体の約半数と割合が高い ○農業系高校との連携強化 	○定員充足率 80%	<ul style="list-style-type: none"> ○オープンキャンパス開催 ○ホームページのページビュー数 ○ホームページの更新 ○パンフレット配布 (高校、JA、生産部会、行政) ○全ての県内、私立高校の学校訪問を実施 ○高校がダンス ○アグリウオッチング実施 ○ラジオ、テレビ、新聞 ○「こうぐり」掲載 ○FaceBook、新 Instagramの発信 ○農業系高校と意見交換会 ○農業クラブ審査会参加 ○新県外の相談会でのPRを実施 ○新社会人向けPRの実施 ○新就農プログラムに位置づけ ○就農プログラム検討会で農大をPR 	<ul style="list-style-type: none"> ○受験者 34名 <昨年比 1名減> ○合格者 30名 <昨年比 1名減> ○入校者 30名 <昨年比 2名増> <p><令和2年度> 合格者数 受験者 推薦 18名 18名 前期 8名 10名 後期 4名 6名 計 30名 34名 令和3年度入校者 30名</p> <p><令和元年度> 合格者数 受験者 推薦 17名 19名 前期 11名 13名 後期 3名 3名 計 31名 35名 令和2年度入校者 28名</p> <p>平成31年度入校者 28名</p> <p>平成30年度入校生 36名</p>	C	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍のなかで、アグリウオッチングや学校説明会等各種の計画がなくなった影響はあるだろうが、目標に届いていない。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ○オープンキャンパス ○パンフレット等配布 ○高校ガイダンス ○広報の充実 ○HP、SNSの充実 ⑧いの町内中学校、小学校との連携

評価項目	課題	目標	具体的方策	実績 (内部評価)		外部評価	評価	今後の課題・改善策
					評価			
(2) カリキュラムの充実)	○学生のキャリアパスが多様化	○時代のニーズにマッチした教育内容の充実 ○G-GAP認証の継続取得 ○花のMPS認証取得 ○全品目でGAPの考え方を実践	○学生へのシラバスの配布 ○G-GAP認証に向けた実践教育 ・「GAP」講義の実施 ・適正な生産工程管理の実施、チェックリストの作成、内部評価、審査 ○花日持ち品質の実践 ○ガイドラインGAPの検討 ○ 新 専門科目の充実 ○ 新 有機農業の授業を新設 ○ 新 体育の授業を再設定 ○ICTを活用したスマート農業の実践 ○進路希望別カリキュラムの実施 ○販売実習の実施 ○農作業事故防止への対応 ・注意喚起の掲示 ・学生の技量別操作の実施 ・十分な機械実習時間数の確保	○G-GAPの認証継続 ・審査(トマト)10/9 ・認証取得 11/19 ○リスク管理の確認 野菜4品目、花き5品目、果樹1品目計10品目におけるカイゼンの実施 ○ネット活用講義「SNSと農業」、ICT活用講座「スマート農業」 ○畜産学生への肉用牛実習が未実施→削蹄技術指導 ○6次産業化科目(講義・実習)の実施 ・ファーマーズキッチン開設と特別講義の実施 ・販売実習の実施 日曜市(果樹7回、野菜花4回)、農大ショップ10回 ○就農、雇用就農、就職コース 営農計画・機械操作→実施 ハウス建設等→未実施 ○聴講科目の充実 植物生理Ⅰ,Ⅱ 3人 植物病理 3人 土壌肥料学 5人 スマート農業 2人 園芸各論 3人	B	・カリキュラムについては、有機農業や6次産業化など多岐にわたって実施している。 ・畜産(肉用牛)実習の強化。	B	<魅力あるカリキュラム> ○スマート農業の充実 ドローン購入予定 IoT技術の習得 ○GAPの取り組み継続 ○花日持ち品質向上の継続 リスク管理等 ○食品加工品の開発・販売 ○災害食の開発・利用 ○進路別で就農コースの充実 ○聴講制度の充実

評価項目	課題	目標	具体的方策	自己評価 (内部評価)		外部評価		今後の取り組み												
					評価		評価													
(3) 基礎学力の向上	○基礎学力に学生間差がある	○基礎学力の向上(学校全体のレベル向上)	○基礎学力の向上 ・農業計算補習(25名対象) ・実習で農業計算指導(全員) ・国語の補習(人数未定) ・かがくクラブ発足 ○入試合格者への課題提出(数学、国語、基礎化学)	○農業計算の補習(肥料計算、希釈倍数など) 2年12人、1年13人を対象に補習7回実施 ○国語の補習→未実施 ○ヤンマー懸賞の応募70% ○かがくクラブ補習5回実施(物質変化、燃焼など)	B	・人生を生き抜くための基礎的な学力を身につけて欲しい。 ・社会に出たら自分がやりたいことばかりではない。 学生が、今できることはすべきである。	B	○基礎学力(算数等)の向上 ○令和3年度は、ヤンマー懸賞金作文からノベルズアグリ奨学金への応募に変更。												
(4) 学生の生活指導の充実	○規則違反、マナー違反が散見される ○社会人としての意識向上 ○コミュニケーション能力の向上	○自主的活動の実践 ○社会人として行動・実践	○人権・メンタル面のカウンセリング実施<臨床心理士、公認心理士>(1年 名+2年 名) ○提出期限等の遵守指導 ○重要事項を掲示版に掲示 ○ルール遵守のための学生指導強化 ○接遇の講義、社会人マナー研修の実施 ○GAPの考え方を寮生活に導入 ○1分間スピーチの実施	○年度当初の指導の充実 ○カウンセリング実施(7月) 1年生28名、2年生3人 ○目標と達成度の分析 ○評価 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>評価点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学習姿勢</td> <td>65点</td> </tr> <tr> <td>生活態度</td> <td>75点</td> </tr> <tr> <td>日常挨拶</td> <td>65点</td> </tr> <tr> <td>寮の整頓</td> <td>50点</td> </tr> <tr> <td>コミュニケーション力</td> <td>80点</td> </tr> </tbody> </table> ※校長が100点満点で採点 ※生活態度 ・処分 停学 0名、戒告3名 注意30名(延べ)	項目	評価点	学習姿勢	65点	生活態度	75点	日常挨拶	65点	寮の整頓	50点	コミュニケーション力	80点	C	・学生達でイベントを計画してみてもどうか。寮での活動として、非常時に備えてテントを建てる練習をしたら、自分達の経験になる。 ・リモートで世界中につながる事ができる時代。全国の法人との交流等も検討してみてもどうか。	C	○各自の目標設定の徹底 ○やる気を出させる取り組み ○挨拶が普通に出来る環境づくり ○学生指導の充実
項目	評価点																			
学習姿勢	65点																			
生活態度	75点																			
日常挨拶	65点																			
寮の整頓	50点																			
コミュニケーション力	80点																			

評価項目	課題	目標	具体的方策	自己評価 (内部評価)		外部評価		今後の取り組み
					評価		評価	
2 専門性の 向上 (1) オランダ との交流	○レンティス校との交流 目的の明確化	○オランダとの交流実施	○オランダ・レンティス校 学生の受け入れ (約10日間) ○オランダ訪問団への参加 (約10日間)	○新型コロナウイルスの感染 拡大防止のため中止 ○R3年度の訪問に向けて、 希望者が英会話を勉強中 (訪問時期未定)。	B	・新型コロナウイルスの感染 拡大防止のため中止とな ったが、次回に期待する。	B	○レンティス校との交流 ○英会話力の向上
(2) プロジェ クト活動 の強化	○課題解決の ための計画、 実行、分析能 力の向上	○卒論審査全 員合格 ○次世代ハウ スを活用し たプロジェ クトの実施 2課題以上	○地域課題に対応したプロ ジェクト課題の選定 ○四国意見発表会に参加 (12月、2名) ○中国四国プロジェクト発 表会に参加(1月、2名) ○実習後の実習日誌の指導 (年間) ○次世代型ハウスを活用し たプロジェクト実習 (年間)	○学生の自主性を高める指 導の実現 ○プロジェクト審査 対象者：園芸学科26名、 畜産学科1名 全員合格 ○四国意見発表会 畜産学科1年生3位受賞 ○中四国プロジェクト発表 会を高知県で実施、リモ ート開催は初の試み。 全国切符は獲得なし。 ○実習日誌による指導 (野菜6回、花き12回、 果樹10回、畜産48回) ○高軒高ハウスの利活用 ・環境制御の理論及び操作 方法の習得指導 (園芸学科1,2年生全員 対象)	A	・今年は、コロナの影響で各 種の行事(特によさこい) がなくなったことで、プロ ジェクトに集中すること ができた(学生代表委員)。	A	○プロジェクトに地域課 題の取り上げ ○生産現場との情報交換 の充実 ○「一作を通した栽培が必 須」から、一部を「短期間 での植物生理等の課題解 決」へ

評価項目	課題	目標	具体的方策	自己評価 (内部評価)		外部評価		今後の取り組み
					評価		評価	
(3) 法人の求める能力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○農業法人からは元気な学生が求められている ○コミュニケーション力が求められている ○農業法人との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ○法人就農者の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ○雇用就農に対応した講義の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・雇用管理の講義（社労士） ○法人とのマッチング <ul style="list-style-type: none"> ・法人との意見交換会 1年（7月、28人、数社） ・法人現地視察 1年（11月、28人、数社） ・農業技術検定の取得支援 ○インターンシップの強化（1年、6月、11法人） ○先進農家等留学研修の実施（2年、10月、数社） ○休日アルバイト利用10名 	<ul style="list-style-type: none"> ○農業生産法人での雇用就農者10名（うち県内7名） <ul style="list-style-type: none"> ・エフビットコミュニケーションズ ・Aitosa 株式会社 ・イチネン農園 ・吉本農産 ・はぐみ農園 など 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の基礎学力は必要。法人側は、「元気な学生」を求めている。コミュニケーション能力を高めて欲しい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○生産法人との交流 ○生産法人の講義の再構築
(4) 各種資格・免許取得	<ul style="list-style-type: none"> ○資格免許の合格率の向上 ○補習の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○合格者及び免許取得者の確保 <p>目標数値</p> <p>【合格者数】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乙種4類 10名 ・農業技術検定3級 28名 ・エクセル3級 25名 	<ul style="list-style-type: none"> ○資格取得のための支援 ○資格取得の必要性の周知 <p>【資格・免許等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 危険物乙種4類取扱者 毒物劇物取扱者 日本農業技術検定 フラワー装飾 エクセル3級 土壤医3級 フォークリフト 小型車両系建機(3t未満) 狩猟わな免許 	<ul style="list-style-type: none"> ○合格者 <ul style="list-style-type: none"> 乙種4類取扱者 5/34名 毒物劇物取扱者 1/12名 農業技術検定2級 1/34名 農業技術検定3級 19/22名 フラワー装飾3級 8/11名 エクセル3級 25/28名 土壤医3級 2/26名 フォークリフト 29/29名 小型車両系建機 28/28名 狩猟わな免許 3/3名 人工授精師 3/3名 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・資格取得は、取捨選択が必要ではないか。 ・資格の取得について、アンケート調査を実施して、学生の希望する資格を事前に確認して対応してはどうか。 ・大型特殊の練習場としてのグラウンド整備は農大のPRにつながる。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ○資格試験対策の充実 ○大型特殊(農耕車限定)免許取得への支援

評価項目	課題	目標	具体的方策	自己評価 (内部評価)	評価	外部評価	評価	今後の取り組み
3 進路支援 活動の強化 (1) 就職活動 の支援体 制の強化	<ul style="list-style-type: none"> ○卒業後直ちに就農できる学生は少ない ○就職活動の意欲が低い学生が散見される ○雇用就農できる生産法人の開拓 	○進路内定率 100%	<ul style="list-style-type: none"> ○進路別カリキュラム（就農、雇用就農、就職コース）の支援 ○キャリア支援（ジョブカード記入、コンサル） ○三者面談を通じた早期の目標の明確化（6月） ○求人情報の把握と紹介（毎月） ○海外農業研修の情報提供（5月） ○就職説明会の実施(3月) 	<ul style="list-style-type: none"> ○進路内定者 就職(JA 高知市等 9名) 雇用就農（10名） 親元就農（5名） 進学(1名)、未定（2名） ○三者面談の実施 2年：5月実施済 1年：7月実施済 ○求人情報 県内企業 24社 県内求人数 48名 県外企業 62社 県外求人数 387名 ○進路先 就農 5名 雇用就農 10名 就職 12名 	B	・雇用就農がもう少し増えて欲しい。	B	○5年後の目標設定支援
(2) 就農支援	<ul style="list-style-type: none"> ○将来の就農ビジョンが明確でない ○農業の厳しさを十分認識せず、農業次世代人材投資事業に申請する学生がいる 	○就農率 60%	<ul style="list-style-type: none"> ○コース別による就農に向けた栽培・経営計画、目標の明確化（経営計画の策定、農業機械操作、ハウス張替、土づくり） ○農業次世代人材投資事業（準備型）の活用支援 ○JA高知市青壮年部との意見交換会 ○就農後のフォローアップ調査対象（H27～R2年度卒業生） 	<ul style="list-style-type: none"> ○就農率 合計 15名 55% (元年度 41%、2年度 58%) ○地域担い手協議会と連携 ○2年就農コース専攻 14名 ○人材投資事業(準備型) 利用 <1年若干名、2年1名> ○定着率（H27卒～R3卒） 親元就農：100% 雇用就農：100% 就農合計：100% ○農業振興センターと連携（データの共有） 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・就農計画、雇用計画をしっかり学び、その後、技術や知識を習得して独立していく。親が農家でないと就農が難しいというイメージを待たせないで欲しい。親元・独立を分けずに就農として考えて行って欲しい。 ・農大生には魅力ある農業をしてもらいたい。 ・篤農家（元気な農家）に研修にいけるようにして欲しい。 	B	○就農コースの充実

評価項目	課題	目標	具体的方策	自己評価 (内部評価)		外部評価		今後の取り組み
					評価		評価	
4 教職員の スキルアップ 研修の強化	<p>○生産現場の課題をいち早く授業に取り上げて円滑な就農に結び付けることが必要</p> <p>○若者の心理を踏まえた教育指導技術の向上が必要</p>	○各種研修への参加	<p>○教官研修の受講</p> <p>○産地の栽培技術等の動向調査</p>	<p>○参加状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新任研修 リモートで開催(2名参加) ・ 教育研修会 中止 ・ 西日本(野菜) 中止 (花き)実施(11/18、19) 徳島へ1名参加 (果樹)中止 (畜産)中止 ・ 中国四国(教務) 中止 ・ 試験研究及び産地視察 ⇒野菜4回、花き20回、 果樹5回、畜産3回 ・ 環境制御成果発表会 ⇒未実施 ・ 6次産業化視察(11/30) 徳島農大の調査2名 ・ 農業系校教諭との意見交換 中止 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農業大学の先生は、学校の教員でないことが問題ではないか。 ・ 短期間で異動するため、やりたいことが出来ていないのではないか。 	B	<p>○校外の情報収集の強化</p> <p>○県外農大からの情報収集の充実</p> <p>○リモート授業の開催を想定したスキル向上</p>